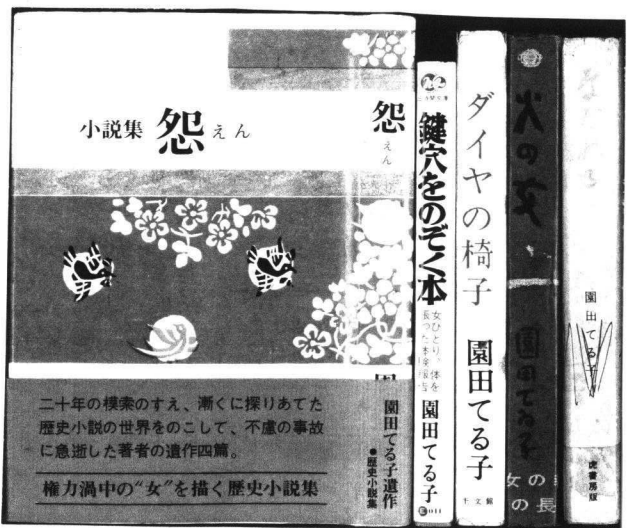


園田てる子 小説家。昭和二年十一月十一日所生、熊谷生れ、五十二年五月十一日没（七十一歳）。本名テラ。縣立高等女子學校卒業後、開校の結婚。二十五年頃より小説を書き始める、少女小説、隨筆、探訪物等併せて數千冊を殘す。事故の讞ひを遺す。

著書に、『おたねの』(昭和二十一年十月二十一日虎書房)、『火の女』(昭和二十五年十月十五日東京信友社)、『おたねの』(昭和二十七年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和二十九年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和三十一年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和三十三年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和三十五年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和三十七年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和三十九年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和四十一年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和四十三年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和四十五年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和四十七年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和四十九年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和五十一年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和五十三年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和五十五年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和五十七年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和五十九年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和六十一年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和六十三年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和六十五年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和六十七年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和六十九年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和七十一年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和七十三年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和七十五年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和七十七年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和七十九年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和八十一年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和八十三年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和八十五年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和八十七年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和八十九年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和九十一年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和九十三年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和九十五年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和九十七年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和九十九年十一月十日、同社)、『おたねの』(昭和五十一年八月十一日光風社書店)等。



二十年の模索のすえ、漸くに探りあてた歴史小説の世界をのこして、不慮の事故に急逝した著者の遺作四篇。
権力渦中の“女”を描く歴史小説集